

第2回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 平成30年11月11日（日） 14時～16時
- 開催場所 天王台北近隣センター
- 参加者 7名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他管理職 12人

■懇談要旨

市 民：我孫子市は、非常に文化活動が盛んな都市です。従来の市民会館は1,000人規模のホールがありました。しかし当初から音響が悪いと言われてました。

これまで平成19年市民会館の閉鎖後、新たな建設に向けた連絡会議をまとめたり、18年9月には再建に向けた署名活動をして市に提出しております。これまで10年以上経過しています。やり方として非常にスピード感がないことと、これまでも何らかの手立てがあっても良かったと思います。

中間報告が遅くなったことは、統合化や市役所との複合化などが検討に加わったことらしいが、これまでやってきたことへのフォローが無く、いきなり中間報告となっていることにこれまでの手法に疑問があります。中間報告の内容では、これまでの意見が反映されてないと思います。また、賑わいづくりとして市外の人を呼び込むような案になってなく、非常にクローズされていると思えます。

市 長：市民会館については賛否分かれています。6対4か7対3で建設賛成の方が多く感じがしています。税金を使って建設する以上、反対の方の意見も聞くべきと考えています。市民会館が無くなってから、次に建てる場所はここがいい、あそこがいいと意見も様々でした。市では、民間業者に委託して調査していただき、その結果、報告書にあります手賀沼のほとりが最も適している場所となりました。

今後も、文化連盟や学校関係者等の意見を聞き皆さんにお知らせしながら、建設した方がいいのかどうか、いろいろな意見を頂戴しながら進めていきたい

と思います。貴重なご意見ありがとうございました。

市 民：前回に引き続き質問します。泉地区の水害被害が解消されていないので進めてください。泉地区は、すでに20年経過しています。これまで確認してきたところ、泉地区の水害を解消するためには、栄地区から泉地区を通過して天王台幹線排水路に流れる雨水管を改修しなければ、解消できない、そのためには栄地区の調査をやらなければ具体的な設計もできないということでした。設計着手する元となることも出来ない状況では、また、さらに延びてしまいます。ぜひ今年度は、泉地区の水害解消のために最優先で予算承認していただけるよう、ぜひ市長さんに進めていただけるようお願いいたします。

治水課主幹：お話のとおり30年度は予算措置ができませんでした。市の財政的なこともありますが、担当課としては、新年度に向けて要求する準備を進めているところです。

市 民：査定が0の理由として、栄地区の民間事業者の工事の進み具合によることでしたが、現在栄地区はほとんど空き地がない。そもそも、民間事業者の進捗状況と予算の査定とは関係ないことと思います。栄地区は昔の計画と違ってきており、敷設当時の基礎データとは違います。開発業者の工事では調整池を設けることなどありますが、流出量が増えることは明らかです。ぜひ基礎調査を早急に実施して進めてください。

企画財政部長：昨年の段階では、9億の予算に対して、50億近くの要求がありました。この要求を精査して9億に抑えることに大変苦慮したところです。いずれにしても事業の優先順位を付けながら行っている状況です。

なんとか、市としても皆さんの要望にかなうよう努力はしておりますが、各地域それぞれの思いがあり、納得いただける状況ではないことも分かっておりますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

市 民：文化交流拠点施設の報告書を見ても人を多く呼べる感じがしません。

我孫子にトキを呼ぶ計画はないでしょうか。我孫子が有名になり非常に賑わうと思います。

市 長：トキの計画はありません。以前、コウノトリの放鳥計画はありましたが、計画には5億ほどかかるという事でした。当時は、小中学校の耐震工事も進んでいませんでしたので、まず、子どもたちの安全を優先して保育園の耐震診断や小中学校の耐震工事やエアコンの設置を進めました。また、水害対策工事も進めてきていますが、まだまだ必要と思っています。各事業に優先順位を付けながら進めていきます。

市 民：文化交流拠点施設の建設について使う人、使わない人とクリアに分けられないと思います。この市が持っている文化的活力を生かさない手はないと思います。交流人口や定住化など進めるためにも人が集まる魅力ある文化施設があることが重要です。住民の意見がどっちと言う事だけではなく、市のためにはどうしたらいいか、どうしていきたいかも考えて計画を進めていってほしいと思っています。

市 長：文化交流拠点施設は、市民会館のようにホールだけの単独施設といった単なる箱モノを作るのではなく、ホールやギャラリーやイベントなどで使えるような多機能施設として、また、施設利用者以外の目的の人にも利用していただけるよう手賀沼のほとりで人が集まれる、賑わいのできるような建物になればと思っています。

市 民：手賀沼公園・久寺家線についてですが、残り1件で31年度の完成となっていますが。

市 長：用地買収の残りがあと1件と言う事です。これまで無くなってしまいう駐車場の代替地を取得する条件を進めてきたところですが、代替地も取得できたこ

とから、最終交渉を行って事業を進めていくと言う事です。

市 民：先ほど市長から床上浸水のところを優先するとの話がありました。水害による床上浸水は栄地区でも起こっています。栄を何とかするためには泉の流れを良くしないと栄の解決に繋がらないので、栄の調査だけではなく泉も含めて全体改修が必要です。そこに着手するための入口にして欲しい、それがこちらの要望です。これまでは、並木地区が終わらなければと言う事でしたが、実際はそのままです。被害世帯数としては、よその地区に比べて少ないですが、着実に計画を進めていただきたい。

市 長：現在31年度の経常経費の予算をそのまま事業を続けるかなど、精査しているところです。そのうえで、新たな事業にどのくらいできるかといった予算が出てきます。そのための作業を進めています。